

1 学校教育目標	2 本年度の重点目標
「渾身勉強」「白鳥蓮花に入る」 ～元氣いっぱい笑顔かがやく児童の育成～	①自分づくり(心の安心を育む)学校風土の確立と児童の自己肯定感の向上 ②仲間づくり(地域を生かした教育活動の推進と豊かな体験活動の充実) ③学びづくり(確かな学力向上と道徳教育の充実・発展)

達成度	A:ほぼ達成できた B:概ね達成できた C:やや不十分である D:不十分である
-----	--

重点目標を具体的に評価するための項目や指標を盛り込む

3 目標・評価

①自分づくり(心のサポート活動の推進)

領域	評価項目	評価の観点(具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題(左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	●心を高める教育	・夢や目標について自ら考えさせる	「千代田の町や人が好きです」と回答する児童を100%にする。 「自らの夢や目標の実現に向けて努力する」と回答する児童を90%以上にさせる。	・社会科や道徳科、総合的な学習の時間等で、地域学習や郷土の歴史学習に計画的、積極的に取り組む。その際、地域の教育資源や人材等を活用した学習を計画する。 ・全教科等、学校行事等を通して、夢や目標について自ら考えさせる時間や場面を設ける。	A	・各学年に応じて、社会科や道徳科、総合的な学習の学習の時間等で、ゲストティーチャーや外部機関からの講師の先生に来ていただき、地域学習や郷土の歴史学習、将来の夢や目標について体験を通して考えさせる学習を行うことができた。 ・千代田の町や人が好きです98%、「自らの夢や目標の実現に向けて努力する」93%の児童が回答していた。	・今年度の結果を受け、来年度も児童の前向きな意欲や積極的な教育活動への姿勢を大切にし、より自分に自信をもつ、学校や地域が大好きな思いをもつことができるよう学習を継続して取り組んでいく。
	●心の教育	・児童の自己肯定感の向上	「心タイム」等で「ありがとう」、「よきみつけ」の心木カードを年間25枚以上書く。 ・学校が楽しいと思う児童を100%にする。 ・自分のよきが言える子を80%以上にさせる。	・心タイムでは、カードの時間を年間8回、エンカウンターを年間5回実施する。児童の笑顔に合わせて、心タイム以外にもカードを実施する。児童の「ありがとう」「よきみつけ」「心木」カードを教師や保護者にも書いてもらい随時紹介し、生活の振り返りを行なわせる。 ・道徳の時間や学級活動、生徒指導、人権教育等の指導を通して、望ましい人間関係づくりを推進する。	A	・心タイムの時間を計画通り実施した。児童は心タイムやそれ以外の時間でも、年間25枚以上のカードを書き、先生や保護者に書いてもらったカードを見て生活の振り返りをし、次の活動への意欲につながることができた。 ・「学校が楽しいと思う」と答えた児童は98%と去年より向上した。 ・「自分にはよいことがあると思う」児童は89%と去年より向上した。	・今後も「ありがとう」「よきみつけ」「心木」カードの取り組みを行う。保護者にも学校行事後「心木」カードを配布し、書いていただくよう呼びかけていく。 ・心タイム、道徳科や学級活動、生徒指導、人権教育等の指導を今後も引き続き行いつつ、児童の自己肯定感が向上するような、声かけやきめ細かな支援を行う。
	●いじめ問題への対応	・いじめをしない子どもの育成 ・生徒指導、教育相談の充実	・いじめ認知・認知ゼロにする。	・アンケートやQ-Uリストの結果をもとに一回の生徒指導連絡協議会時に協議し早期に共通理解を促し、問題解決を図る。支援が必要な子どもに対して、SCやSSWとも連携し、関係への対応なども考えていく。また、教育相談研修会や講師を招聘し、職員いじめ予防策について研修を積む。	A	・今年度も心アンケートを毎月13日前後に実施し、アンケート結果から緊急に必要と判断する質問を行い、いじめの芽を根絶する対応をした。支援が必要な児童への対応は担任はもちろん、特別支援学級担任や級外、SCやSSWと連携し、保護者と学校で情報の共有を行い、改善に向け協議を行った。 ・11月11日のQ-Uリストの結果を基に、気になる児童の対応についてSCからの助言を学級経営に活かすことができた。教育相談研修会では、SCから「特性を考慮した児童生徒への関わり」というテーマで、自分の気持ちを表現することが苦手な児童への支援を学び、研修を積むことができた。	・来年度も心アンケートや「Q-Uリスト」を実施し、いじめゼロへの取り組みを継続していく。 ・教職員だけでなく、SCやSSWなどの専門家とも連携し、気になる児童への対応や心のケア等についての支援を継続する。 ・いじめのない学校づくりには、自分づくり部だけの取り組みだけでなく、授業や学校行事などあらゆる機会において、「いじめは許さない」とする職員の共通理解が重要である。来年度もいじめゼロを推進する。
	○基本的な生活習慣の確立	・『心はほかほか・掃除はひかひか運動』による指導の徹底	・「あいさつ+1」「無言排除」「そらえる活動」の達成率を95%以上にさせる。	・「あいさつ+1」について、自分なりの「+1」を決めさせ、月ごとに振り返らせる。また、上手にできている子どもを朝の会、朝の会、生活朝会等で称賞し、全体の意識を高める。 ・無言排除は、毎時間の反省をしっかりと、特に、リーダー(6年生)の意識を高めるように指導する。学級排除については、突撃に応じて随時指導をする。 ・靴やスリッパをきれいに並べている。」「靴やスリッパをきれいに並べている。」「靴やスリッパをきれいに並べている。」「靴やスリッパをきれいに並べている。」	A	・「進んであいさつすることができている。」の児童は99%、「家庭や地域でのつりあいができている。」と答えた保護者は90%であった。 ・「無言排除」に取り組むことができた。」「の児童は、95%であった。縦割り掃除では、高学年を中心にグループ一体となって無言排除に取り組む姿が定着しており、その姿が学級排除においても反映されていると考えられる。 ・「靴やスリッパをきれいに並べている。」「靴やスリッパをきれいに並べている。」「靴やスリッパをきれいに並べている。」「靴やスリッパをきれいに並べている。」の児童は、99%であった。教師の継続的な声かけやボランティアハイスポートの活用により、児童一人一人の揃えようという意識が高まった。	・自分のできる「あいさつ+1」を意識させながら、各学年に応じた取組を展開していく。また、学校全体で推進している児童を称賞していく活動も継続していく。 ・「無言排除」を基本としながら、さらにできる「+1」を考えさせ、実践できるように支援していく。 ・「そらえる活動」に関しては、これまでの取組を継続するとともに、靴やスリッパだけでなく、その他みんなで使う物全般に広げていく。
	○安全安心な学校	・児童の危険回避能力の育成 ・施設、環境の整備	・実効性のある各種訓練(交通安全教室・地震津波避難訓練・火災避難訓練・防災教室)を行う事で、児童の危険を回避する方法や態度を身に付けさせる。防災ブザーの所持率100%、携帯率95%以上、ヘルメット所持率100%、着席率95%以上とする。	・実施計画を十分に検討し、全職員の共通理解のもと実施する。 ・「防災ブザー」携帯やヘルメット着用の効果については、児童や保護者に発表する機会を持つ。点検の日を毎月継続して行うことで、児童や保護者の購入や携帯・着用への意識を高める。 ・毎月5日までに安全点検を行い、修繕箇所等は、速やかに改善する。 ・毎日点検を徹底し、安全面に配慮する。	A	・「安全のための指導」取組がきちんと行われている。」と答えた保護者は、98%であった。実施計画に沿って訓練を行うことで、児童の危険回避意識が高まっている。 ・「防災ブザー」携帯やヘルメットをかかっている。」と答えた割合は、児童が99%、保護者が97%であった。また、防災ブザーに関しては、所持率100%、携帯率95%であった。毎月1回の点検等での啓発により、交通安全に対する意識や防犯に対する意識が高まっている。	・今年度の反省をもとに、年3回行う各種避難訓練の見直しを行い、児童の危険回避能力の向上を図っていく。 ・引き続き、「ヘルメット」「防災ブザー」の所持及び使用に関する点検を毎月行い、保護者と連携しながら対応にあたる。

②仲間づくり(豊かな体験活動の推進)

領域	評価項目	評価の観点(具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題(左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	○仲間づくり	・縦割り活動の充実 ・ボランティア活動の充実	・週1回の縦割り掃除や年間5回以上のなかよタイム、遠足や体育大会等の行事での縦割り活動を通して、継続的な異学年交流を行う。 ・ボランティアの考えや事例を示し、ゴミ拾い等のボランティアの呼びかけなどを行う。 ・行ったボランティアを記入する「ボランティアパスポート」を1人年間1冊以上を目標に活動を行う。	・遠足や体育大会等の行事では、ふり返り活動を行い、自分や友だちのがんばりに気づかせることで、よりよい人間関係を形成する。 ・児童が書いたふり返りカードを各学年で紹介する時間を設けることで、縦割り活動への意欲を向上させる。 ・児童会活動の子どもたちの意見を取り入れながら、随時縦割り給食やイベントを行い、活動の充実を図る。 ・ボランティア・美化委員会委員長の放送説明やボランティア集金を行い、児童の意欲・関心を高める。 ・全職員で、ボランティアに取り組むことができていく児童にシールを渡し、価値付けていく。(自己申告を認めていく。)	A	・遠足や体育大会等の行事でふり返りカードを書かせたことで、自分や友だちのよきやがんばりに気づくことができた。 ・ボランティア活動では、たてわり対抗長綱大会やたてわり給食を行い、異学年交流の充実を図ることができた。 ・ボランティア・美化委員会によるボランティアの説明やボランティア月間での取り組みが行われ、児童の意欲・関心を高めることができた。 ・ボランティアに取り組んだ児童にシールを随時渡し、価値付けすることで、年間1冊以上を目標に達成させることができた。	・今後も学校行事だけでなく、児童会活動の中で、児童の意見を取り入れながら、縦割り活動の充実を図っていく。 ・今後もボランティアに取り組むことのよさを伝えていき、自己肯定感を高めていく。
	●健康・体づくり	・「早寝・早起き・朝ご飯」の徹底	・学年に応じた就寝時間を守る児童の割合を80%以上にさせる。 ・歯科の受診率を80%以上、眼科の受診率を70%以上にさせる。	・過去の生活アンケートで見てきた夜更かしの実態について、家庭へ啓発を行い、家庭でのルール作りを推進していく。 ・健康診断実施後、学級PTAや保護者指導時など機会あるごとに受診勧告や呼びかけを行う。	B	・課題の変更かしについては、「テレビやゲーム等の時間を決める。機を後、やらの優先順位を決める」など、指導指針や保護指導を行った結果、学年に合わせた就寝時間を守る項目では、高学年77.5%、低学年は、81.5%であった。全体で79%という結果であった。高学年が目標達成できていないが、昨年は70%だったため、就寝時間を守る児童が増えた。 ・受診率では、歯科については、75%で目標達成には至らなかった。視力の受診については、70%を達成した。	・「早寝・早起き・朝ご飯」など生活アンケートやチェックシートを作成し、その結果を基に、引き続き保護指導を継続していく。各学年の発達段階に合わせてテーマを変え、場合によっては健康相談活動として継続して個別指導を行う。 ・「朝ご飯」や「朝ご飯」に関する調査を企画し、PTAの家庭学習講座で行った。
	●体力の向上	・体力の向上	・週3回は、昼休みに外で遊ぶ。 ・スポーツチャレンジを各学年2種以上選択したものを1年間継続して取り組み、各科目住居質ランキング上位3位以内を目指す。	・外遊びの奨励をしたり、みんなで遊ぶ日を定期的に設定したりする。 ・体育の授業において(準備運動後の5分間程度)年間継続的に取り組むことで、児童の運動に対する意欲を高め、体力の向上につながる。 ・明確な数値目標(回数、タイム)を各学年ごとに決め、達成に向け継続的に取り組み、達成を確信しながら、意欲向上を図る。 ・昨年度上位の記録を1年間継続し、目標もって取り組む環境をつくる。 ・体育学習での体力向上とともに、学校や地域での外遊びの奨励に努めていく。	A	・朝、15分休み、昼休み、どの時間も多くの児童が外遊びができた。 ・保護運動委員会が縦割り班での長縄大会を計画・実施したことで、昼休みに運動する児童が増え、スポーツチャレンジの新たな種目に参加することができた。 ・各学年2種目以上に参加し、住居質ランキングでも3種目以上上位3位以内に入ることができた。	・前年の各学年の保護記録を1年間提示し、具体的な数値目標を各学年ごとに決め、目標達成に向け、体力と意欲の向上を図る。 ・保護運動委員会の出席を徹底するだけでなく、児童主体の体力向上の取り組みを行い、体力の向上につなげる。

③学びづくり(学力向上の推進と道徳科の工夫・改善)

領域	評価項目	評価の観点(具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題(左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	○教職員の資質向上	・教職員の指導力向上	・研究授業、全員1回は公開する。 ・教育センター講座又は研究発表会に1回以上参加する。 ・外部講師を招聘しての研究会を年6回以上実施したり、授業実践のための書籍を購入したりして、研修を積む。	・授業改善に向け、校内研修を活性化させる。 ・校内研修で学習状況調査等の結果分析を行い、具体的な改善策を検討する。 ・職員研修希望を募集し、それに見合った講師を招聘する。	A	・研究授業を全員1回は取り組むことができ、道徳の授業について改善を図ることができた。 ・教育センターでの研修や研究発表会にも1回以上参加することができた。 ・外部講師を招聘しての研究会も数回行い、職員の研修を深めることができた。	・業務改善と関連して、研究授業の準備などにおいて効率的な取組ができるように、年間を見直し校内研修の企画・運営を行う。
	●学力の向上	・各学年毎の到達目標の設定(4教科)	・1～3年 学力検査の正答率を全国平均値より+5ポイント以上にさせる。 ・4～6年 12月調査で県平均より+3ポイント以上にさせる。	・毎学期、学力向上推進委員会を開催し、具体的な取組について検討する。 ・校内研修で学習状況調査等の結果分析を行い、具体的な改善策を検討する。 ・道のスキルタイムの充実を図る。また、必要児童には個別指導を行う。 ・授業改善に向け、校内研修を活性化させる。	A	・1～3年生は標準学力検査を、4～6年生は住居質小・中学校学習状況調査をそれぞれ行った。標準学力検査では、1年生の国語、3年生の社会、算数、理科が全国平均値を2ポイント以上回った。4～6年生の住居質小・中学校学習状況調査に関しては、全ての教科において目標の3ポイントを上回ることであった。 ・12月調査の結果分析を行い、スキルタイムや授業のよりよい改善、個別指導の実施など、学力向上につながる取組の充実を図ることができた。	・今年度も、標準学力検査全国平均値5ポイント以上、住居質小・中学校学習状況調査で県平均値3ポイント以上を上回るという目標を継続して設定する。全学年、全教科達成するために、まずは「要努力」の児童をおおむね達成へと引き上げる必要がある。授業の始めや終わり、学習内容の理解を促すなど、授業以外の時間を有効に活用し、スキルタイムの充実などに取り組んでいく。
	●家庭学習の習慣化	・家庭学習の習慣化	・学年に応じた家庭学習時間を97%以上に達成する。 ・毎日の宿題ができた児童を100%にする。	・県の「家庭学習の手引き」、市の「親子・子学」(家庭学習)等を利用して、保護者に対し家庭学習の大切さを定期的に、継続的に啓発する。 ・学年に応じた家庭学習の時間を設定し、児童や保護者に周知することにより、家庭学習の習慣化を図る。 ・毎日の宿題を必ず提出することを徹底し、習慣化を図る。	A	・自学の一層の定着と充実を図るために、年3回の自学コンクールを行い、家庭学習や自学への意欲の向上を図った。 ・学年に応じた学習習慣達成率98%を超え、目標を達成することができた。 ・毎日の宿題を守る児童の目標を100%に設定したが、1、2学期ともに97.0%と100%の目標には達しなかったが、高い水準を示した。	・各学級において、数は少ないが毎日の宿題に取り組めない児童の家庭訪問の取組も、宿題を守ることの習慣化の指導、あるいは保護者への依頼等を徹底して行っている。 ・今年度も中学校と連携し、高学年では家庭学習を習慣化させるための「タイムマネジメント」に継続して取り組む。 ・毎日の宿題を守る児童を100%にするために、学級通信や「学び通信」などで、その必要性を啓発していく。
	○読書習慣の定着	・読書活動の推進	・年間平均130冊の達成率を、達成率90%以上にさせる。 ・推薦図書50冊達成率を90%以上にさせる。	・新刊図書や学年に応じた推薦図書の紹介、図書委員会によるイベント等を通して読書への関心を高めるとともに、読書に関する取組を呼びかける。 ・130冊・50冊の達成者には表彰を行い、読書意欲を高める。	A	・図書委員会を中心に、一日図書委員、読書郵便等のイベントを行ったり、130冊・50冊の達成に向けて児童全体で取り組んだこと、読書に親しみ児童を育てることができた。	・今年度の取組を継続して、読書に親しみ児童を育てていく。また、家庭への働きかけも行っていく。
	●心の教育	・道徳教育の充実	・「ふれあい道徳」の授業参観への参加率を90%以上にさせる。 ・「いのちを尊ぶ集い」へ、できるだけ多くの保護者に参加していただく。 ・本校独自の「教科連携」のあり方を、校内研修を通して確立する。	・「ふれあい道徳」の授業参観への告知を、通信等でできるだけ早く保護者に行う。 ・授業や行事における児童の振り返りを通して保護者と共有し、学校の道徳教育の取組への理解を図る。 ・年間を通して計画的な校内研修や研究授業の研修の場を通して、道徳授業のあり方を深める。 ・「ちとちとっ子」や「ふれあい道徳」を活用し、職員業務研修を図る。	A	・「ふれあい道徳」の授業参観には、80%以上の保護者の参加があった。また、「いのちを尊ぶ集い」は多くの保護者に参加いただいた。 ・振り返りをもとめた「道徳レポート」や、学校内・学級通信を基に、保護者への道徳教育の取組について伝えることができた。 ・年間を通して計画的な校内研修や研究授業を通して、道徳科の指導法や評価のあり方についての理解を深めることができた。	・「生命尊重を主題としたふれあい道徳」や「いのちを尊ぶ集い」を来年度も継続して行う。命を大切にすることを、保護者・地域・学校で育んでいくことをさらに啓発していく。 ・道徳科の授業の研修をさらに深め、自尊感情を高め、自己を見つめる他者と共によき生きようとする児童を育成することにならなければならない。

本年度の重点目標に含まれない共通評価項目

領域	評価項目	評価の観点(具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題(左記の理由)	具体的な改善策・向上策
学校運営	●業務改善・教職員の働き方改革の推進	・長時間労働の解消	・毎月の時間外勤務時間50時間以内の割合を90%以上にさせる。 ・勤務時間を意識し、計画的効率的に職務遂行できた職員の割合を70%以上にさせる。	・18:00の退勤時刻と18:15の始業時刻を徹底し、最終退勤時刻を周知し、意識を高める。 ・職員会議の開催、校務分掌の平準化を行い、全職員で協働的に教育活動を行い、自発的な働き方改革に取り組む。 ・校務分掌の平準化を図り、定期的な指導部会に於いて、校務や校内研究内容についても効率的・協働的に検討し合い、チーム学校として教育活動に取り組む。 ・「ちとちとっ子」や「ふれあい道徳」を活用し、職員業務研修を図る。	A	・毎月の時間外勤務時間50時間以内の割合は、86%であった。退勤時刻の意識化はできたが、出勤時刻への対応が難しかった。 ・勤務時間を意識し、計画的効率的に職務遂行できた職員の割合は、86%であった。	・退勤時刻の意識化とともに、出勤時刻の意識化にも取り組み、全体的な時間外勤務時間の削減に取り組む。 ・業務改善のための、学校の教育活動の見直しを学務局を行い、業務削減に取り組む。
	○学校経営	・学校開放と情報公開	・学校行事、授業参観への参加率を90%以上にさせる。 ・ホームページの更新を週1回以上行う。 ・地域人材等を年間2回以上活用する。	・参観日等の学校行事前には、学校(学級)役りや携帯メール等で情報提供し、参加を呼びかける。 ・ホームページの更新を随時随時に行い、積極的に学校情報を提供する。 ・人材リストを周知し、年間計画を視野に入れた活用の啓発を図る。	B	・学校行事や授業参観への参加率は、76%であった。 ・ホームページの更新は週1回以上行うことができた。学校での生活の様子を保護者や地域に伝えることができた。 ・今年度、地域人材活用ボランティア「花丸先生」の活用を行ったり、大豆の栽培を丸の方々と取り組んだこと、地域への広報活動に力を入れる。	・地域人材(材)を効果的に活用できるように、活用の時期や単元内容と連携した地域人材活用表を作成し、職員への周知と活用を促す。 ・来年度は、更に「ちとちとっ子」や「ふれあい道徳」を活用するために、地域への広報活動に力を入れる。

4 本年度のまとめ・次年度の取組

保護者アンケートからは、本校の教育活動に対して、今年度もかなり好意的な評価をいただいている。教職員アンケートからも同様である。児童アンケートの結果も良好であり、経年変化を見ても高止まりの状況である。「自らの夢や目標の実現に向けて努力する」と思う児童が93%、「千代田の町や人が好き」と思う児童が99%などである。その結果、全職員と保護者、地域の協力のもとに、学校教育目標の実現に向けて取り組むことができた。
標準学力検査全国平均値5ポイント以上、住居質小・中学校学習状況調査で県平均値3ポイント以上を上回るという目標を達成することができた。通常の学習に加え、授業以外の時間を使って、基礎学力向上を重点とした個別指導などで対応した結果である。今年度も継続して、「学びづくり部」「仲間づくり部」「自分づくり部」と3つの部を構成し、それぞれが道徳研究の3つの部と関連することができるようとした。それぞれからの自主的な提案や実践を行うことで、職員間の連携が強化された全体的には概ねよい結果になっている。その結果、チーム学校として学校教育目標を全職員で共有し、課題を洗い出し、各部署で目標を設定し、その達成のために具体的な方策を考え実践していくことができた。
「地域人材(材)」の活用をしながら、教育活動の充実に取り組んできた。来年度も地域とともにある学校であることを目指して、学校運営に取り組んでいく。

●は共通評価項目、○は独自評価項目